

2025 年度

神奈川県小学生バレーボール連盟

ルール講習会 資料

【資料目次】

1. 令和7年度 公益財団法人日本バレーボール協会 審判規則委員会 活動方針	P. 1
2. ルールの改正点・修正点	P. 2
3. 2025 年度 レフェリーの目標と6人生の重点指導項目	P. 9
4. 2025 年度 ルールブックの修正についてと取り扱いの改訂について	P.16
5. 日本小学生バレーボール連盟 令和7年度全国審判講習会資料（審判委員会）	P.20
6. 日本小学生バレーボール連盟 令和7年度全国審判講習会資料（競技委員会）	P.21
7. 審判委員と協議（コート）委員の役割・連携について	P.23

ルールや取り扱いについて、ルール講習会にて確認したいことや質問がある場合は、
Google フォームからご入力ください。



<https://forms.gle/chhEvEcpqXwbaxfq9>

神奈川県小学生バレーボール連盟 審判委員会

令和7年度 公益財団法人日本バレーボール協会

審判規則委員会 指針

令和7年度審判規則委員会は、以下の5項目を指針とし、各事業を推進する。

- 1 各ブロックと連携して、各種講習会や審判育成事業等を通して、次世代を担う若手レフェリーの育成に努める。また、子育て世代のレフェリーが活躍できる環境整備を引き続き推進する。また、男女共同参画をさらに進めるため、特に各カテゴリー・各都道府県にも女性審判員の活動の支援を推進する。
- 2 コンプライアンスに関する意識向上をさらに図るため、コンプライアンス教育を各種研修、講習会で計画的に実施する。レフェリーが主体的に取り組み、次世代に繋がるような指導の方法を確立する
- 3 選手・指導者を対象に、ルール及び取り扱いについての周知・徹底を図り、正しい理解とルール遵守を醸成する。
- 4 各種別において判定基準の統一を図り、安定した技術とメンタル面の強化に努める。また、試合中の選手やチームスタッフの言動に対しては、バレーボールとしてのインテグリティが保てるようにルールを的確に適用し、公平・公正な競技運営を行う。
- 5 レフェリーは、国内競技会及び国際競技会をスムーズに運営するために必要な事前講習会に参加してレフェリーとしての質の向上を図る。技術のレベルアップがバレーボールの競技力向上になることを忘れてはならない。

-
- 指導部：
- 1 A級審判員にカテゴリーを設けた育成体制を推進し、映像等も有効に活用し、より具体的な技術指導を行うことでレベルに応じた強化事業を推進し、スキルアップを目指す。
 - 2 子育て世代のレフェリーについては、ライフスタイルに合わせ、安心して審判活動に取り組める環境を、JVA・ブロック等と連携しながら整備していく。
 - 3 レフェリーの責務として、選手・指導者に対しルールはもとより、ルールの改・修正点や取り扱い等を正確に伝達しルールの理解を深めることを目指し、スムーズな大会運営だけでなく競技力の向上に資する。
 - 4 各ブロックと連携をしながら、A級審判員だけでなく幅広く公認レフェリー、特に若手の育成事業を実施し、裾野の拡大を図る。
- 規則部：
- 見易く正確で分り易いルールブックの作成を目指し、4種別のケースブックの編集を行う。6人制とビーチバレーボールはFIVBからの最新情報を収集し、必要に応じて改正・修正を行う。また、一般の方を含め広くルールを伝達するためホームページでの情報提供について基礎的検討を行う。
- 登録部：
- JVAメンバー制度(MRS)に従って、A級審判員等のMRS登録の完了を目指す。また、早期登録手続きの完了と公認審判員の現状把握を行うために、各ブロック・都道府県との連携を図りながら、B・C級審判員資格保有者数の確認および登録者数の拡大を目指す。

以上

ルールの改正点・修正点

1 6人制改正点・修正点

本競技規則は、2024年11月15日から17日にポルトガルのポルトで開催された第39回FIVB総会においてルール改正が承認され、2025年1月にFIVBより「ルールブック2025-2028」としてホームページに公表されたものである。それをもとに2025年度版ルールブックの改・修正点を以下のようにまとめた。

ケースブックについても2024年に改訂版が公表され、削除や追加されたケースなども多く、この機会に全体的な見直しを行った。

本年度のルールブックも「英文併記」とし、『ケースブック』についてもケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な改・修正点である。

●改正点

7.4 ポジション

サービスヒットの瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内に位置していなければならない。レシービングチームの選手はサービスヒット時、ローテーション順に位置していなければならない。

サービングチームの選手はサービスヒット時、どの位置にいてもよい。

7.4.4 サービスヒット後、両チームの選手は自チームのコートとフリーゾーンのどの位置にいても移動してもよい。

10.1 ネットを通過するボール

10.1.2 チームが1回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外からネット垂直面を越えて相手フリーゾーンに行った場合、チームの許容ヒット内で以下の条件のもとにプレーしてボールを取り戻すことができる。(第5図b)

10.1.2.1 規則11.2.2.1の場合を除き、選手が相手コートに触れない。

10.1.2.2 ボールを取り戻すとき、ボールの全体または一部は再びコートの同じ側の許容空間外からネット垂直面を越えなければならない。そうでない場合はボールアウトとなる。
相手チームはこの動作を妨げてはならない。(第5図b)

10.1.2.3 チームが2回目または3回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外を通過して相手フリーゾーンに行った場合は、ボールを取り戻すことはできない。ボールがネット垂直面を越えた時点でアウトとなる。

11.4 ネット近くの選手の反則

11.4.1 相手チームのアタックヒットの前または同時に、選手が相手空間でボールもしくは相手選手に触れたとき。(規則11.1.1, 第11図㉑)

12.5 スクリーン

12.5.3 サービングチームの選手は、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上にあげてはならない。

意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはゲームキャプテンを通じてチームに注意することができる。

23.3.2 試合中、ファーストレフェリーは次の権限を持つ。

23.3.2.3 次のことを判定する。

i) サービスボールや2回目または3回目にヒットされたボールがファーストレフェリー側のアンテナ上方や外側を通過したとき。(第11図㉒)

24.3.2 試合中、セカンドレフェリーは次のことを判定し、ホイッスルしてハンドシグナルを示

す。

24.3.2.8 サービスボールや2回目または3回目にヒットされたボールがセカンドレフェリー側のアンテナ上方や外側を通過したとき。(第11図⑩)

29.2.1 ラインジャッジはフラッグ(40×40 cm)を使用して次のことをシグナルで示す:

29.2.1.3 ボールがアンテナに触れたとき, またはサービスボールおよびチームの2回目または3回目にヒットされたボールが許容空間外側のネットの垂直面を通過したとき。(規則8.4.3, 8.4.4, 第5図a, 第12図④)

● 修正点

1. リザーブレフェリーの責務についての条文を修正した。
 - 26.2.5 セカンドレフェリーを補佐し, プレーの妨げとなるものがフリーゾーンにないように注意する。
 - 26.2.6 セカンドレフェリーを補佐し, 退場や失格となったチームメンバーがチーム控室に行くように指示をする。
 - 26.2.9 ファーストレフェリーを補佐し, モッパールの任務を管理する。
2. 規則をより読み易くするため, 単語訳や表記を見直し, 字句を修正した。
3. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

2 9人制改正点・修正点

今年度についても, これまでのラリーの継続を踏襲し, プレーをする側も, 観る側も理解しやすいよう競技規則を見直した。具体的には, ルールブックの内容がより理解しやすくなるよう章立ての見直しを行った。また, 9人制と6人制の競技規則について, その違いを簡易的にまとめて表にした。その他, 日頃から公益財団法人日本バレーボール協会(JVA)に寄せられた9人制競技規則に対する意見等も参考に, 条文の表現を平易にしてより分かりやすい競技規則になるよう心掛けて編集に当たった。

以下が本年度の主な修正点である。

● 修正点

1. 第5章 試合の中断と遅延行為

この章を新たに追加し, 今までの「第3章 試合の準備と進行」と「第4章 プレーの定義と反則」に含まれていた以下の条項を記載した。

【第3章 試合の準備と進行】

- ・試合の中断と再開
- ・セット間の中断
- ・タイムアウト
- ・選手交代
- ・試合中断の不当な要求と処置
- ・不法な選手がプレーしたときの処置
- ・セットおよび試合の勝者
- ・特殊な事情による試合の中断と処置
- ・セットまたは試合の没収

【第4章 プレーの定義と反則】

- ・試合の遅延

2. 第6章 不法な行為と罰則

この章を新たに追加し, 今までの「第4章 プレーの定義と反則」に含まれていた以下の条

項を記載した。

- ・ 不法な行為

3. 第1条 競技エリア (第1図)

第1項 競技エリア

- ➡ 競技エリアに変更。

第3項 フリーゾーン

フリーゾーンは最小限サイドラインから5m, エンドラインから6.5mの広さがなければならない。

- ➡ 最小限を削除。

4. 第5条 競技参加者の権利と義務

第1項 基本的な権利と義務

3 競技参加者は試合中、審判員の判定に異議を申し出ることとはできない。競技規則の適用解釈については、ゲームキャプテンのみが主審に対して質問をすることができる。

4 コート内の選手を除く競技参加者は試合中、

(2) チームベンチやウォームアップエリアからコート内の選手に対して激励したり、話しかけたりすることができる。

- ➡ 文言の変更。

5. 第7条 試合の開始とサービス権の移行

第2項 第2 (第3) セットの開始

第2 (第3) セットは、前セットの最後にサービスを行った相手チームの次のサーバーで開始する。

- ➡ 文言の変更。

6. 第17条 試合の中断と再開

第2項 試合の再開

(1) セット間の中断の場合は、前セットの最後にサービスを行った相手チームの次のサーバーで再開する。

- ➡ セット間の中断の場合を追加。

7. 第18条 セット間の中断

セット間の中断の時間は3分間とする。この間、選手はコートから離れチームベンチ近くにいなければならない。ただし、他の試合の妨げとならない限り、自チーム側のフリーゾーンでボールを使用してウォームアップをすることができる。

- ➡ 文言の削除。

8. 第19条 タイムアウト

3 タイムアウトの間、プレー中の選手は自チームベンチ近くのフリーゾーンに出なければならない。ただし、他の試合の妨げとならない限りエンドライン後方のフリーゾーンでボールを使用しないでウォームアップをすることができる。

- ➡ 文言の削除。

9. 付録(2) ヴィンテージ8's競技規則

- ➡ 新たに付録を追加。

10. 付録(3) 公式記録記入法

1 試合前

⑥ 正規に登録された選手の番号と氏名。また、チームキャプテンの番号を○で囲む(選手は番号順または構成メンバー表順に記入する)。

- ➡ 文言の変更。

11. 付録(5) ケースブック

第5章 試合の中断と遅延行為

この章を新たに追加し、今までの「第3章 試合の準備と進行」と「第4章 プレーの

定義と反則」に含まれていた以下の条項を記載した。

【第3章 試合の準備と進行】

- ・セット間の中断
- ・タイムアウト
- ・選手交代
- ・試合中断の不当な要求と処置
- ・不法な選手がプレーしたときの処置
- ・特殊な事情による試合の中断と処置
- ・セットまたは試合の没収

【第4章 プレーの定義と反則】

- ・試合の遅延

第6章 不法な行為と罰則

この章を新たに追加し、今までの「第4章 プレーの定義と反則」に含まれていた以下の条項を記載した。

- ・不法な行為

その他にケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

12. 付録(6) 9・6人制競技規則対照表

➡ 新たに付録を追加。

3 ビーチバレー改正点・修正点

本競技規則は、2024年11月15日から17日にポルトガルのポルトで開催された第39回FIVB総会においてルール改正が承認され、FIVBより「ルールブック2025-2028」としてホームページに公表されたものである。それをもとに、2025年度版ルールブックの改・修正点を以下のようにまとめた。

本年度のルールブックも「英文併記」とし、『ケースブック』のケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な改・修正点である。

● 改正点

8.4 ボール”アウト”

- 8.4.4 サービスおよびチームの2回目または3回目のヒットが、ボールの全体またはその一部でも許容空間外側のネットの垂直面を通過したとき。ただし、規則 10.1.2 の場合を除く。(規則 2.3, 10.1.2.2, 第3図a, 第8図⑮, 第9図④)

9.1 チームのヒット

9.1.2 同時の接触

- 9.1.2.3 相対するチームの2人の選手がネット上で同時にヒットしたボールへの接触が長引いた場合、その接触が相手コート上で完了しても、プレーは続行される。(規則 9.1.2.2)

10.1 ネットを通過するボール

- 10.1.2 チームが1回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外からネット垂直面を越えて相手フリーゾーンに行った場合、チームの許容ヒット内で以下の条件のもとにプレーしてボールを取り戻すことができる。(規則 9.1, 第3図b)

- 10.1.2.1 ボールを取り戻すとき、ボールの全体または一部はコートの同じ側の許容空間外からネット垂直面を越えなければならない。そうでない場合、ボールアウトとなる。

相手チームはこの動作を妨げてはならない。(規則 11.4.3, 第3図b)

- 10.1.2.2 チームが2回目または3回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外を通って相手フリーゾーンに行った場合は、取り戻すことはできない。ボールがネット垂直面を

越えた時点でアウトとなる。(第3図b)

10.1.3 ボールがネット下の空間で相手コートに向かっていているとき、ボール全体がネット垂直面を越える瞬間までプレーすることができる。(第3図b)

11.1 ネットの向こう側に手を伸ばすこと

11.1.2 アタックヒット中、選手の最初の接触が自チームのフリープレー空間で行われ、ボールをつかんだり投げたりしなければ、その手がネットを越えて相手空間に入ってもよい。

12.5 スクリーン

12.5.3 サービングチームの選手は、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上にあげてはならない。(規則12.4, 12.5.2, 第4図, 第8図⑫)

意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはキャプテンを通じてチームに注意することができる。

15.5 不当な要求

15.5.4 試合での1回目の不当な要求は、試合に影響を与えず試合の遅延にならなければ拒否される。罰則の適用を受けることはないが、スコアシートには記録される。(規則16.1.2, 26.2.2.4, 26.2.2.6)

22.3.2 試合中、ファーストレフェリーは次の権限を持つ。

22.3.2.3 次のことを判定する。

e) サービスボールや2回目または3回目にヒットされたボールがファーストレフェリー側のアンテナ上方や外側を通過したとき。

23.3.2 試合中、セカンドレフェリーは次のことを判定し、ホイッスルしてハンドシグナルを示す。

23.3.2.7 サービスボールや2回目または3回目にヒットされたボールがセカンドレフェリー側のアンテナ上方や外側を通過したとき。

28.2.1 ラインジャッジはフラッグ(40×40cm)を使用して次のことをシグナルで示す：

28.2.1.3 ボールがアンテナに触れたとき、またはサービスボールおよびチームの2回目または3回目にヒットされたボールが許容空間外側のネットの垂直面を通過したとき。

● 修正点

1. リザーブレフェリーの責務についての条文を修正した。

25.2.6 サンドレバラーの動きを指示するファーストレフェリーを補佐する。(規則22.2.2)

2. スコアシート記入法を多くの方に理解していただけるように修正し、スコアラの責務について記載を追加した。

3. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。

4. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

4 ソフトバレー改正点・修正点

競技規則制定から38年を迎え、競技規則は、6・9人制バレーボールの長所を生かしながらソフトバレーボールの本質である「いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも」に沿い、適合したものとなるよう心掛け編集を行った。

本年度は、競技場の表記を競技エリアに、選手またはボールがフリーゾーンを越えた場合の基準を完全に越えた場合に統一した。

以下が本年度の主な修正点である。

● 修正点

I. 条文の修正

第1章 施設と用具

1 競技エリア (第1図)

1.1 競技エリア

- 1.1.1 競技エリアには、コートおよびフリーゾーンが含まれる。
- 1.1.2 競技エリアの表面から最低限7mの高さとフリーゾーンにはネット、支柱、審判台を除き、一切の障害物があってはならない。
- 1.1.3 競技エリアは、平坦かつ水平であり、荒れていたり滑りやすい表面であってはならない。

〈第1図 競技エリアの規格〉

⇒競技場の表記を競技エリアに修正した。

第5章 プレー上の動作と反則

19 アタックヒット

- 19.5 「ファミリーの部」では、ボール全体がネット上端より高い位置にあるとき、バックに位置した大人の選手がアタックヒットを完了したときは反則となる。

⇒サービスされたボール全体の表記に誤りがあったため、「サービスされた」の表記を削除した。

22 プレー上の反則

22.1 ペネトレーションフォルト

- 22.1.3 センターラインを完全に越えて、相手コートに接触したとき。ただし、片方の足(両足)または片方の手(両手)の一部がセンターラインに接触しているか、その真上に残っていれば許される。しかし、肘、膝、頭などの身体部分が相手コートに接触した場合は反則となる。(第8図)

⇒本文表記に誤りがあり、「残っていなければ許される。」の表記を「残っていれば許される。」に修正した。

- 22.12.5 ボールが完全にフリーゾーンを越えたとき。

⇒「フリーゾーンを超えたとき。」を「完全にフリーゾーンを越えたとき。」とし、22.1.4の選手の場合とボールの場合の基準を統一する修正をした。

- 22.12.6 他の選手や競技エリア内の物体で身体を支えたり、これを利用してボールをプレーしたとき。

⇒競技場の表記を競技エリアに修正した。

第7章 審判員の責務および公式ハンドシグナル

26 主 審

26.1 権 限

- 26.1.4 主審は、試合開始前あるいは試合中に、競技エリアやその状況が競技に適しているかどうかを決定する責任をもつ。

⇒競技場の表記を競技エリアに修正した。

26.2 責 務

26.2.1 主審は、試合開始前

- 26.2.1.1 競技エリア、ボールや他の用具の状態を点検する。

⇒競技場の表記を競技エリアに修正した。

- 26.2.2.3 特殊な事情が発生したときは、吹笛しラリーを中断する。

⇒反則の場合と特殊な事情による中断の場合の吹笛を区分するため、26.2.2.2の(d)を削除し、新たな条項を追加した。

27 副 審

27.2 責 務

- 27.2.2 次の反則があったときは、吹笛し続いて公式ハンドシグナルを用いて、その種類を示す。ただし、主審の吹笛に続いて他の反則の吹笛はしない。

⇒副審が吹笛し判定する反則の手続きを解りやすい文章に修正した。

27.2.3 特殊な事情が発生したときは、吹笛シラリーを中断する。

⇒反則の場合と特殊な事情による中断の場合の吹笛を区分するため、27.2.2.6を削除し、新たな条項を追加した。

31 主審と副審の公式ハンドシグナル (第10図)

第10図 主審と副審の公式ハンドシグナル

●ペネトレーションフォルト ⑮

規則17.4.5, 17.4.6, 22.1, 26.2.2.2 (b) , 27.2.2.3

⇒規則条項の修正をした。

II. その他

規則, 公式記録記入法, プロトコールおよびケースブックをより読み易く理解しやすいように表記の見直し, 字句を修正した。

『2025年度 レフェリーの目標と6人制の重点指導項目』

修正版

JVA競技普及推進本部 審判規則委員会 指導部

1 目 標

- (1) 競技規則の精神を理解し、論理的・実践的な知識を習得する。
- (2) 正しい判定をするための眼を養い、そのための基本的な動きや位置取りを研究し、審判技術の向上に努める。
- (3) 多くの経験を通して、強いメンタルと人間性の醸成に努め、よりよいゲームマネジメントに繋げる。
- (4) 試合での的確な判定や講習会等を通して、正しいルールや取り扱いをチームに伝える。

2 重点指導項目

【ファーストレフェリー】

- (1) ハンドリング基準について
 - ・すべてのレフェリーが統一できるようにする。少なくとも、試合を通して一定した判定ができるよう基準をもつ。
 - ・特に、オーバーハンドを用いたプレーのハンドリング（キャッチ）について、同一の基準で判定を行う。
- (2) スクリーンについて
 - ・チームが意図してスクリーンを形成している疑いがある場合は注意を与える。チームがスクリーンの形成を戦略として使うことを許してはならない。
- (3) 不法な行為について
 - ・参加競技者の不法な行為に対しては、毅然とした態度でルールを適用する。
 - ・最終判定後、セカンドレフェリーと協働し、コートを確認する。
 - ・軽度な不法行為を繰り返すことがないために、早い段階でステージ1を与える。
- (4) ポジションの反則の判定について
 - ・ルール改正で、サービングチームの選手はサービスヒット時、どの位置にいてもよいとなったが、フロントとバックの選手のポジションの把握を必ず行う。

【セカンドレフェリー】

- (1) 不法な行為についておよびベンチコントロールについて
 - ・ラリー終了後の相手選手に対しての言動について、最終判定後、ファーストレフェリーと協働しコートを確認する。
 - ・ネット際やベンチ等でファーストレフェリーが気づかない不法な行為があればファーストレフェリーに伝える。
- (2) ポジションの反則の判定について
 - ・サービスヒットの瞬間に、完全に入れ替わっているケースについて、確実に判定する。ヒットの瞬間とは、サービスが打たれた瞬間である。
 - ・ロングサーバーが起った際の確認を十分に行い、両チームに適切に指導する。
- (3) 試合中のスコアラーのコントロール、不測の事態を的確に処置する。スコアシートの最終確認を確実に行う。
- (4) 不法な行為や不当な要求・遅延行為に対する取り扱いを正しく理解し、試合の中で適切かつスムーズに処置を行う。

【スコアラー】

スコアシートの記入ミスがないようにするため、常にサービス順、得点の確認を行い、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認をしてミスの無いようにする。（JVIMSがある場合は、その情報も参考にする）

【アシスタントスコアラー】

- (1) 不法なリベロリプレイスメントの際の手順について、正確に行う。
- (2) スコアボードの得点が正しいか常に確認し、スコアラーを補佐する。

2025年度 6人制ルールの取り扱いについて(改訂版)

2025, 3, 29

【1】 プレーの動作に関する事項

9.2 ヒットの特徴

9.2.1 ボールは身体の中の部分で触れてもよい。

9.2.2 ボールをつかむこと、投げることは許されない。ボールはどの方向にはね返ってもよい。

9.2.3 ボールは接触が同時であれば身体の中のさまざまな部分に触れてもよい。

例外：

9.2.3.1 ブロックでは、1つの動作中であれば1人または2人以上のブロッカーが連続して接触してもよい。(規則 14.2)

9.2.3.2 チームの1回目のヒットでは、1つの動作中であればボールは身体の中のさまざまな部分に連続して接触してもよい。(規則 9.1)

9.3 ボールをプレーするときの反則

9.3.1 フォアヒット：チームが返球する前にボールを4回ヒットすること。

(規則 9.1, 第 11 図⑨)

9.3.2 アシステッドヒット：選手が競技エリア内でボールをヒットするために、チームメイトまたは構造物や物体からの助けを得ること。(規則 9.1.3)

9.3.3 キャッチ：ボールをつかむ、または投げる。この場合、ボールはヒット後、接触しているところから離れない。(規則 9.2.2, 第 11 図⑩)

9.3.4 ダブルコンタクト：1人の選手が連続してボールを2回ヒットすること、またはボールが1人の選手の身体の中のさまざまな部分に連続して触れること。

(規則 9.2.3, 第 11 図⑪)

(注)

- 1 プレーのハンドリング基準は、すべて同一である。
- 2 ボールは、クリアにヒットされなければならない。ボールをヒット後、接触している部分から離れないと判断された場合はキャッチの反則となる。
- 3 ボールをつかむ、投げる、ボールの方向を変える、持ち上げる。このようなプレーはキャッチの反則となることがある。ファーストレフェリーは、ボールが接触している状況を的確に判定する。
- 4 特にオーバーハンドパスにおいて、手の中に止まるケースや長くとどまるようなプレーは、キャッチの反則となる。

10.1 ネットを通過するボール

10.1.2.3 チームが 2 回目または 3 回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外を通過して相手フリーゾーンに行った場合は、ボールを取り戻すことはできない。ボールがネット垂直面を越えた時点でアウトとなる。

(注)

- 1 ファーストレフェリー、セカンドレフェリーは、2 回目または 3 回目にヒットしたボールが、それぞれのレフェリーサイド許容空間外側のネット垂直面を通過した瞬間にホイッスルをする。

11.4 ネット近くの選手の反則

11.4.1 相手チームのアタックヒットの前~~または同時に~~に、選手が相手空間でボールもしくは相手選手に触れたとき。(規則 11.1.1, 第 11 図②)

(注)

~~1 相手のアタックヒットと同時に、アタックヒット後にブロックの手が触れているのかを見極める必要がある。~~

- 1 相手空間内で、相手のアタックヒット前にブロッカーがボールに触れた場合が反則となる。
- 2 アタックヒットと同時にブロックの手がボールに触れても、反則ではない。

12.3 サービスの許可

ファーストレフェリーは両チームがプレーする準備ができて、サーバーがボールを持っていることを確認した後にサービスを許可する。(第 11 図①)

(注)

- 1 コート上に 5 人だけ、または 7 人の選手がいるときには 6 人になるよう、サービスのホイッスルの前に促す。
もしファーストレフェリーがそのことに気づかずにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり完了した場合、ファーストレフェリーはそのことに気づいたら直ちに罰則無しにラリーをやり直さなければならない。
- 2 ポジション 4 にリベロがいる場合は、ファーストレフェリーはチームが正規の選手にリプレイスメントするのをサービス許可のタイミングまで待つ。それでもリプレイスメントが行われない場合は、セカンドレフェリーを通してアシスタントスコアラーに確認後、リプレイスメントさせ、その後遅延行為に対する罰則を与える。
もしラリーが始まった場合、ポジショナルフォルトとして処置をする。
- 3 サービス許可のタイミングで、その他の不法なリベロリプレイスメントが行われており、ファーストレフェリーが分かっている場合も、上記 2 と同様の処置を行う。

12.5 スクリーン

- 12.5.1 サービングチームの選手は、1人または集団でスクリーンを形成してサービスヒットおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害をしてはならない。
- 12.5.2 サービスが行われるとき、サービングチームの1人または複数の選手が集団で腕を揺り動かしたり、跳びはねたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって立ち、サービスヒットとボールのコースの両方をボールがネット垂直面に到達するまで隠すことでスクリーンとなる。サービスヒットまたはボールのコースがレシービングチームに見えるのであればスクリーンではない。(第6図)
- 12.5.3 サービングチームの選手は、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上にあげてはならない。
意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはゲームキャプテンを通じてチームに注意することができる。

(注)

- 1 チームが意図してスクリーンを形成している場合や、プレーヤーが手を頭より上に上げている場合(頭を保護するために、頭の後ろに手を上げることは許される)、スクリーンの反則になることがある。
- 2 上記のようなケースをサービス許可前に気づいた場合は注意をする。また、サービス許可後に生じた場合はラリー終了後に注意をする。

【2】 プレーの構造に関する事項

7.4 ポジション

サービスヒットの瞬間、両チームは(サーバーを除き)それぞれのコート内に位置していなければならない。レシービングチームの選手はサービスヒット時、ローテーション順に位置していなければならない。

サービングチームの選手はサービスヒット時、どの位置にいてもよい。

7.4.3 選手のポジションは次のとおりコート面に接している両足の位置(最後にコート面に接触していた部分)により決定し、コントロールされる。

7.4.3.1 各バックプレーヤーは対応するフロントプレーヤーと同じ位置にいるか、少なくとも片方の足の一部が対応するフロントプレーヤーの前の足よりセンターラインから遠い位置にいなければならない。

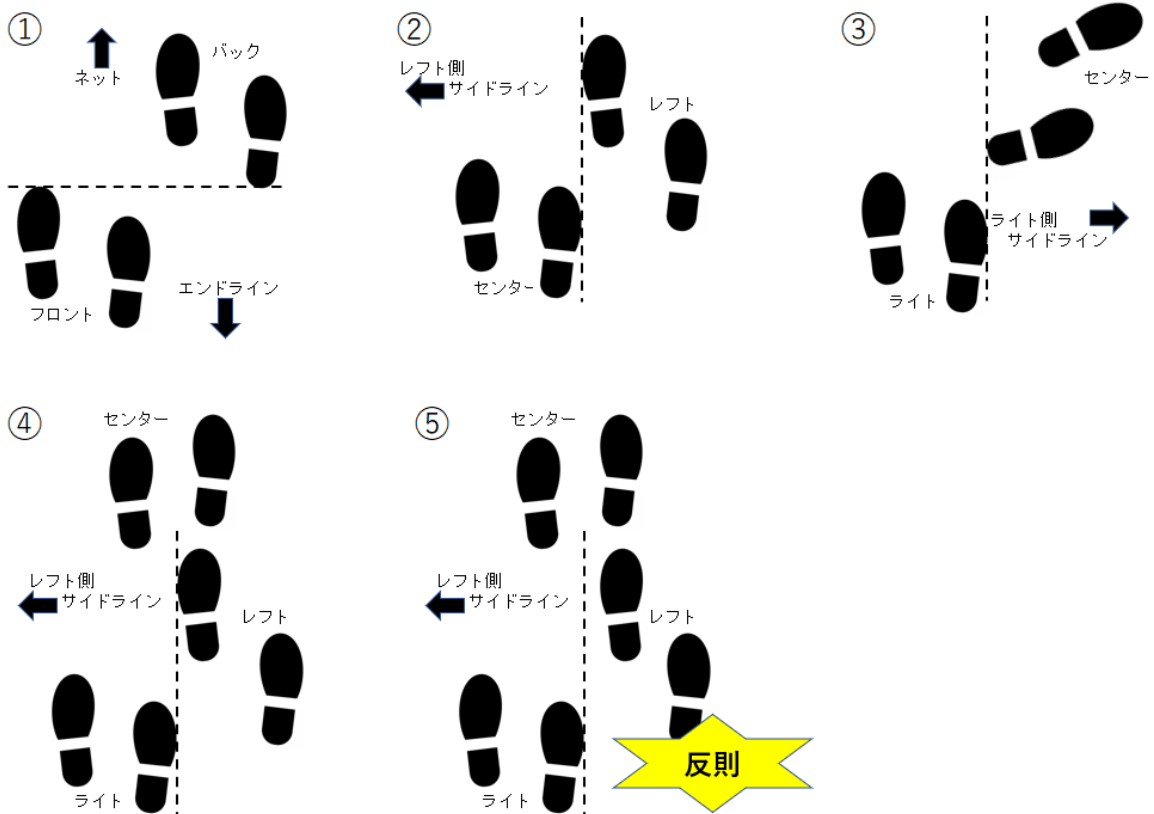
7.4.3.2 ライト(レフト)サイドの各選手は同じ列の他の選手のライト(レフト)側から遠くにある足と同じ位置か、少なくとも片方の足の一部がライト(レフト)のサイドラインに近い位置にいなければならない。

(注)

- 1 サービングチームはローテーション順に位置していなくても反則にはならないが、コート内に位置していないと反則となる。また、サービングチームはフリーポジションではないので、レフェリーはフロント・バックなどのポジションの確認は必要である。
- 2 レシービングチームのポジションの反則が成立するのは、サービスヒットの瞬間である。そのためサーバーがボールをリリースしてからヒットの瞬間までに、ポジションが完全に入れ替わったケースは反則となる。
サービスヒットの瞬間に、完全に入れ替わり反則となっているケースがあるため、レフェリーはポジションを常に把握しなくてはならない。
- 3 サービスヒットの瞬間に、コート面に接している足がない場合、最後にコート面に接触していた部分を基準とする。

(注)

下図①から④はいずれも反則とならない。



【3】 競技参加者の行為に関する事項

20.1 スポーツマンにふさわしい行為

20.1.1 競技参加者は公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。

20.2 フェアプレー

20.2.1 競技参加者はレフェリーだけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対してもフェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

(注)

- 1 ファーストレフェリーの判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
- 2 競技参加者が、規則 20 に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。
- 3 不法な行為については、その程度の種類に応じて、適切な処置を行う。
- 4 競技参加者が、レフェリーに向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。

【主にステージ 1 に該当するケース】

- ①ファーストレフェリーが最終判定を出した後にもレフェリーに不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②ファーストレフェリーがゲームキャプテンの質問に答えた後にも、さらに論争を長引かせるようにした場合。
- ③規則の適用や解釈でない内容の質問が、ゲームキャプテンから繰り返された場合。
- ④一度指導されているのに、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。
- ⑤ネット越しに相手の選手などに対して、ガッツポーズ等牽制する行為などがあった場合。

【主にステージ 2 に該当するケース（直接イエローカードを出すケース）】

- ①ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して抗議や不服的な態度を必要以上に示した場合。
- ②ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。
- 5 試合中に監督をはじめチームスタッフやゲームキャプテン以外のチームメンバーが、レフェリーに質問等、発言をすることはできない。
ただし、監督はリベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声かけ程度のものはできるが、セカンドレフェリーやスコアラーに、説明を求めたり、長く話しかけたりするようなことはできない。

- 6 監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出している場合、ラインジャッジ（特にL 2・L3）の判定の妨げにならないようにレフェリーが注意する。

ラリー終了後、レフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。

- 7 試合終了後、監督・ファーストレフェリー・セカンドレフェリーはフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

2025 年 3 月 29 日

関係 各位

公益財団法人日本バレーボール協会
競技普及推進本部 審判規則委員会
委員長 大塚 達也

2025 年度 ルールブックの修正についてと取り扱いの改訂について

先日の 6 人制講習会の際にルール改正について説明いたしましたが、今年 1 月に FIVB のホームページにアップロードされました RULEBOOK の一部が修正されていることが判明いたしました。つきましては、今年度のルールブックの追加・修正を含め、以下のとおり記載を修正させていただきます。また、ルールブックの修正に合わせ、取り扱いを改訂いたしました。

合わせて全国講習会における質問にも回答を掲載しましたのでご確認ください。

ご迷惑をお掛けして申し訳ございませんが、ご確認のほど、よろしくお願いいたします。

【ルールブックの追加・修正について】

1. ルールブックの追加・修正について（誤植）

- ・ 5.2.3.4 他のチームメンバーと同様にコート上の選手に指示を与えてもよい。ウォームアップエリアが競技コントロールエリア内のコーナーにある場合、試合を妨げたり遅らせたりしなければ、自チームベンチ前のアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる。ウォームアップエリアがチームベンチの後方にある場合は、自チームのコートのアタックラインの延長線からエンドラインまで移動してもよいが、**ラインジャッジ**の視界を遮ってはいけない。
- ・ 7.4 POSITIONS（英文の記載漏れ）

At the moment the ball is hit by the server, each team must be positioned within its own court (except the server). The players of the receiving team must be in the rotational order at the service hit.

The players of the serving team, however, are free to occupy any position at the service hit.

2. RULEBOOK の一部修正

- ・ 9.1.2.3

If simultaneous hits by two opponents over the net lead to an extended contact with the ball, **even if the contact is completed above the opponent court** play continues.

相対するチームの 2 人の選手がネット上で同時にヒットして、そのボールへの接触が長引いた場合、たとえその接触が相手コート上で完了しても、プレーは続行される。

- ・ 11.1.2

After an attack hit, a player is permitted to pass his/her hand beyond the net, provided that the **initial** contact has been made within his/ her own playing space, **and the ball is not caught or thrown.**

自チームのプレー空間でボールに触れ、ボールをつかんだり投げたりしなければ、アタックヒットの後、手がネットを越えて相手空間に入ってもよい。

- ・ 11.4.1

A player touches the ball or an opponent in the opponent's space before ~~or during~~ the opponent's attack hit. (**or during 削除**)

相手チームのアタックヒットの前**または同時に**、選手が相手空間でボールもしくは相手選手に触れたとき。

- ・ 19.4.1

The Libero becomes unable to play if injured, ill, expelled or disqualified. The Libero can be declared unable to play for any reason by the coach or, in the absence of a coach, **by the assistant coach or** by the game captain.

リベロは負傷、病気、退場、または失格によりプレーをすることができなくなることがある。

監督または監督が不在の場合、**アシスタントコーチあるいは**ゲームキャプテンはいかなる理由であってもリベロがプレーできなくなったことを宣言することができる。

- ・ 19.4.2.1

When only one Libero is available for a team according to Rule 19.4.1, or the team has only one registered, and this Libero becomes or is declared unable to play, the coach (**or the assistant coach** or game captain if no coach is present)

規則 19.4.1 によりリベロが 1 人しかいなくなった場合または 1 人しか登録されていない場合にそのリベロがプレーできなくなったときやプレーできなくなったと宣言されたときには、監督(監督不在の場合は**アシスタントコーチあるいは**ゲームキャプテン)はその時点でコート上にいない(リベロと入れ替わった選手を除く)他の選手を、試合終了までリベロとして再指名することができる。

- ・ 19.4.2.3

The coach, **or assistant coach** or game captain if no coach is present, contacts the second referee informing him/her about the re-designation.

監督または監督不在の場合、**アシスタントコーチあるいは**ゲームキャプテンはセカンドレフェリーに再指名について申し出る。

【取り扱いの改訂について】

11.4 ネット近くの選手の反則

11.4.1 相手チームのアタックヒットの前~~または同時に~~に、選手が相手空間でボールもしくは相手選手に触れたとき。(規則 11.1.1, 第 11 図⑳)

(注)

~~1 相手のアタックヒットと同時なのか、アタックヒット後にブロックの手が触れているのかを見極める必要がある。~~

- 1 相手空間内で、相手のアタックヒット前にブロッカーがボールに触れた場合が反則となる。
- 2 アタックヒットと同時にブロックの手がボールに触れても、反則ではない。

【全国講習会での質問に対する回答および確認事項について】

先日の6人制講習会の際にルールの取り扱いについて説明いたしましたが、その際にあった質問に対する回答を整理いたしましたので、ご確認のほど、よろしくお願いいたします。

(1)ファーストレシーブの後、許容空間外側を通過し選手が追った。触ることができたが、取り戻せる方向にボールが飛ばなかった。ホイッスルのタイミングは？

【回答】

今回は、2 回目のヒットが許容空間外側を通過し相手方フリーゾーンに向かったボールについてのルール改正である。したがって、ファーストヒットが許容空間外側を通過し選手が触ることができたボールについては、今までの取扱い通り、相手チームのコート内に入る場合はサイドラインの垂直面を通過した段階で、相手方フリーゾーンに飛んでいく場合は、ボールが落ちるもしくはフリーゾーン外側に出たタイミングでホイッスルをする。

(2)最終セットチェンジコート後、ラインアップシートを確認するが、その際サービス権のあるチームが次のラリーに備え、ラリー開始のポジションにいた場合、ゲームキャプテンにラインアップシートを見せて確認するか？

【回答】

チェンジコート後の選手のポジションの確認については、今までの確認と同じように、ラインアップシート通りに位置していなければ、ゲームキャプテンにラインアップシートを見せて確認をするだけでよく、ラインアップシート通りに位置させる必要はない。

(3)実技を見て、誤解を呼んだかもしれないケース

サービス時、頭より上方へ手をあげていた場合、下ろしなさいという注意をしたが、その際頭の後ろに手をやる仕草をしたため、注意を与えたときはその姿勢にしないではいけなさととらえられている可能性がある。

【回答】

9人制の取扱いとも違いがあるため、再度以下の点について、講師に確認をお願いする

- ① 6人制については、スクリーンのルールがあるので、取扱いに準じて処置をする。チームとして戦略的にスクリーンを形成しているとファーストレフェリーが判断した場合は、ゲームキャプテンを呼び、スク

リーンの形成を意図的にしているのでやめるように指導をする。意図的ではなく、今までの慣習で手を頭より上にあげてしまうような場合は、その場でホイッスルをし、手を下げるように指導を行うこともよい。

- ② 9人制にはスクリーンに関するルールがないため、手を頭の上にあげているから注意をするという観点ではなく、メンバーが集まってサービスを隠すケースが男子で意図的に行われている現状があるので、実技マニュアル通りの対応を行う。(サービス許可のホイッスル後に気づいたときの対応が違っている)

(4) ステージ1の際の円を描くようなシグナルの対応について

【回答】

チームにステージ1を与える際は、ゲームキャプテンを呼んで、口頭で警告を行う。その際には、円を描くようなシグナルをしない。6人制以外の種別についても、同様の取扱いとする。

2025年度 小学生ルールの取り扱いについて

2025年4月13日(日)
日本小学生バレーボール連盟
審判委員会

2025年度6人制競技規則の改修正点、2025年度6人制ルールの取り扱いに準拠し、以下を主に小学生ルールの取り扱いとして、確認することとする。

(1) スクリーンについて

2025年度6人制ルールの取り扱いと同様に扱う。
ただし、小学生はフリーポジション制であることを踏まえ、ファーストレフェリーは、選手の位置をよく確認してから、サービス許可のホイッスルを行う。
フェアプレーの精神から、戦術的にスクリーンを形成することを許さない。
スクリーンに関する注意は、何度でも行うことができる。**小学生連盟での教育的指導とは別である。**

(2) テクニカルタイムアウト(TTO)について

選手の健康と安全に配慮をするために導入されているが、近年、ベンチスタッフが指導する場面が多く見られた。

TTO中における選手の位置はこれまで曖昧であったため、ベンチ横からウォームアップエリアの間※1とし、ベンチスタッフは健康観察の声かけ程度ということを再確認する。

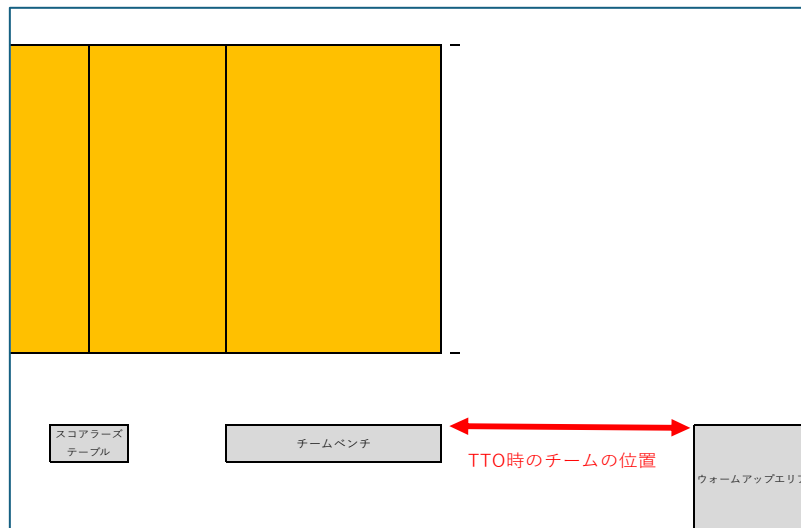
TTOは健康観察を目的とするため、30秒間は指定の場所にとどまること。※2

(30秒を待たずにコートに入ることはできない。)

選手はウォームアップすることはできない。また、**ホイッスル前にベンチスタッフの前に集合することなく、ホイッスル後、速やかにコート内に入ること。**

※1 会場によっては、この限りではない。

※2 選手は休息のためチームベンチに座っていても構わない。



(3) タイムアウト中における、柄付きモップのモップがけについて

柄付きモップの使用は強制ではない。コート内の選手との接触事例も起きている。
コート内の選手が、必ず1名以上、汗等で濡れたフロアを拭くためのワイピングタオルを持つように、レフェリーはトスの時に必ず伝えること。

日本小学生バレーボール連盟 令和7年度全国審判講習会資料

日本小学生バレーボール連盟 競技委員会

○小学生バレーボール大会における競技取り扱いについての共通理解

1. テクニカルタイムアウトについて

※テクニカルタイムアウトは選手の健康と安全のために適用されるものであることを再確認し、選手の給水や健康観察を最優先させること。

- ・選手はベンチ横からウォームアップエリアの間の位置に30秒間とどまること。
- ・テクニカルタイムアウト中は、ウォームアップはできない。
- ・ベンチスタッフの声かけは、健康観察のためのものである。

○全日本バレーボール小学生大会全国大会においては、小学生バレーボール競技規則の通り各セット1回のテクニカルタイムアウトを適用する。

デュースが続く場合の取り扱い

第1、第2セットでは、両チームが31点に達したときに適用し、その後は10点ずつ積み重ねた段階で適用する。3セット目は両チームが21点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。

○都道府県大会等において、会場に空調設備がなく、選手の安全が確保できないと大会実行委員が判断した場合には以下のように適用してもよい。

テクニカルタイムアウトを2回適用する場合の取り扱い

第1、第2セットでは、リードしているチームが7点と14点に達した時、第3セットはリードしているチームが8点に達した時、チェンジコート後に適用する。デュースが続く場合、1～2セットは両チームが25点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。また、3セット目は両チームが21点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。

2. ユニフォームについて

①ユニフォーム規程

選手番号

都道府県名の大きさと位置 チームネームより小さい(高さ) 袖か襟下

②パンツにチーム名を入れることについて

JVA 競技普及推進部からの回答

入れてもよいが、細かな規定(大きさ等)は、今後検討していくことになる。

③混合の男女判別

男女で違うユニフォームを着用すること。ただし、違うユニフォームを用意できない場合や、違うユニフォームであっても類似して一目で見分けがつかない場合には、ソックスの色を変えるかまたは男子・女子のいずれかが識別用バンドを腕か足首に付けて一目で判別できるようにすること。

※審判委員が一目で判別できることが大前提

③ウェア等公認制度について

2025年版がHP「競技関係情報・各種様式」に掲載されている。1社追加

3. ベンチへの持ち込み物について

①飲料水の水筒→ペットボトルは不可だが、スクイズボトルや吸引式のボトルでなくてもワンタッチ式の蓋つき水筒であれば問題ない。

②キャンプカート→安全面、屋外の汚れを入れない観点から**使用禁止**

③スマートウォッチ→時計としての使用は認める。(通信機器やカメラとしての**使用禁止**)

② ③については昨年度確認済みで、大会でも守られていた。

① について、ベンチスタッフ、審判委員等大人のペットボトル使用を認めるかは、各大会の実行委員会にて施設等の決まり等を確認して判断する。

4. 試合中の応援団グッズの使用及び応援マナーへの対応について

平成19年に、監督から選手への指示の声が聞こえなかったり、選手が集中できなかったりするという理由から、太鼓・ラッパなどの大音量を発生する「鳴り物」は複数コートで試合をしているときには使用しないとの通知がされ、現在も適用されています。メガホンやバルーンは鳴り物にはあてはまらず、使用については規制してはおりません。

応援によって選手を励まし、大会を盛り上げることは素晴らしいことであるが、反面応援が選手にとってマイナスとなるケースも見られるので、応援のマナーとして特に以下の点について指導していくこと。

- ・審判のホイッスルが聞こえなくなるようなプレー中の応援はしないこと。
- ・相手チーム自チームに限らず、選手が萎縮してしまうような罵声はださないこと。

○全日本バレーボール小学生大会について

1. ユニフォーム確認について

45回大会においても、都道府県大会において各都道府県競技委員長により確認をする。ただし、今大会ベンチ入り選手が14名になったことから、13・14番については、今大会に限りユニフォームが揃わない場合にはTシャツにゼッケン等で番号を入れた服装でのベンチ入りを認める。

2. 他の都道府県在住選手に関する新年度移籍登録選手の確認について

資料「他の都道府県在住選手に関する新年度移籍登録選手の確認方法について」

資料「他の都道府県在住の新年度移籍登録選手一覧表」

日小連 HP「競技関係情報・各種様式」に掲載されている。

44回大会においては、該当選手は1名

3. 試合間のチームの入れ替えについて

資料「審判委員とコート委員の連携と役割分担」

可能な限り、ブロック大会や都道府県大会でも運用してほしい。

審判委員と競技(コート)委員の役割・連携について

	時 間	チー ム	審判員	コート委員
1		準備・待機	・スコアーシートの準備。 ・ネットの高さや張り具合、アンテナの位置などチェックする。	コートチェックと用具の確認をする ・試合球 ・ボール拭き ・ボールスタンド ・フラッグ ・カード ・ブザー ・得点板 ・チーム名盤 ・ネット ・白帯 ・アンテナ ・ラインテープ
2	第1試合プロトコール 開始5分前	競技エリアの外で待機する。審判員とともにコートに入り、練習を開始する。ネットは使用しない。	試合のチームを競技エリア外で待機させる。競技(コート)委員の合図で、試合チームとともにコートに入る。試合前のチェックを行う。ラインジャッジの確認。	審判員に、コート入場OKの合図を送る。チームの持ち込み備品等の確認。プロトコールまでにラインジャッジが来ない場合は、放送での呼び出しを依頼する。
3	プロトコール	トスをし、監督とキャプテンはサインをする。ユニフォームで公式練習に入る。ラインナップシートを提出する。	プロトコールを進める。ゲームに必要な道具のチェック。ラインジャッジと打ち合わせを行う。	ユニフォームやチームの持ち込み備品確認
4	試合中		ゲームコントロール	コートサイドで待機する。 コート、用具の不具合を発見した場合や審判員の呼び出しに対応する。
5	第1試合終了	○試合終了のチーム 監督と審判は握手する。 キャプテンのサイン後は、速やかにベンチから退出する。※ラインジャッジや得点などの割り当て準備をする。	○試合終了した審判員 監督と握手する。ラインジャッジに御礼を伝える記録用紙の記入を完了させる。(キャプテンからサインをもらう) ※状況によっては記録席から他の場所へ移動して記入する。	キャプテンのサイン後は、チームは速やかに競技エリア外に出るよう促す。
		○次試合のチーム 競技エリアの外で待機。	○次試合の審判員 次試合のチームを競技エリアの外で待機させる	コート、用具の確認、及びチーム名盤の入れ替えをする。 フラッグを回収し、消毒をする。
6	第2試合プロトコール 開始5分前	審判員とともにコートに入り、練習を開始する。	競技(コート)委員の合図を受けて、試合チームとともにコートに入り、試合開始の準備をする。	審判員に、コート入場OKの合図を送る。 担当審判員と当該チームにプロトコール開始時刻を連絡する。

以降 3～6のくり返して進める。

6の時間について

※連続試合となる場合には、試合間を15分空けることができる。

※プロトコールの設定時刻は5分単位で行う。例: 前の試合が10:12終了の場合、10:20もしくは10:25からプロトコールに入る。